



## 茅葺きの営みと新鮮な感性の出会い やさとの茅葺き民家を描く会&絵画展

上) やさと地区の中学生が冬休みに校区内の茅葺き民家を訪ねて一日写生を行いました 下左) それぞれ好きなアングルを探し、屋根をじっくり観察して絵を描いたみなさん 下右) 朝日里山学校では木造校舎の廊下に作品を展示しました





## 農村文化の価値を見直す やさと茅葺き見学会・交流会

上左) 集落と前に広がる田畑、後ろに背負う里山が、昔から変わらないやさとの風景です 上右) 薬師堂に続く道は代々集落で維持されてきました 左) 見学会のあとは農村景観の価値をテーマに講演会を行いました 下) 茅葺き民家とその周辺の集落、風景を歩き、その価値を見直しました







## 茅葺きの里を散策ひとめぐり やさと茅葺き自転車散歩

上) 石岡市内に点在する茅葺き屋根を、里の風景を楽しみながら自転車でめぐりました 下左) 常陸風土記の丘では葺き替えられたばかりの屋根を見学 下右) 訪れた民家では家主から茅葺き屋根の暮らしについて説明を受けました

# 平成 24 年度文化庁事業 ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業 事業報告書

## 1. 名称

### (1) 事業名称

筑波山麓の茅葺き民家と茅場の維持保全をはかるための普及啓発事業

### (2) 団体名称

やさと茅葺き屋根保存会

## 2. 事業実施期間

平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 3 月 13 日

## 3. 事業概要

茨城県石岡市八郷地区には、筑波山系に続く里山、田畑とともに、農村景観の象徴となる茅葺き民家が約 80 棟残されています。2009 年 1 月には「にほんの里 100 選」に選ばれました。当会は地域の茅葺き文化を引き継ぐため、つくば市の「高エネルギー加速器研究機構」の協力のもと、一般市民の参加を得て、機構内のススキを刈り取る「筑波山麓茅刈り隊」を毎年実施してきました。また、「茅葺き職人若手後継者育成」をめざし、市内の「常陸風土記の丘」と連携、地元職人親方のもと 2 名が修行中です。

民家の住人にとっては、労力面、金銭面において茅葺き屋根の維持は年々難しくなっており、今後は新たな活用法の模索や、行政や市民などの協力体制の構築がより一層求められます。普及啓発事業では、茅葺きと茅場の営みを広く知ってもらい、住人・行政・市民のネットワークを充実させ、茅葺き文化を活用、継承する方法を探ります。

## 4. 事業の目的

平成 24 年秋、やさと地区と研究学園都市とを結ぶトンネルが開通します。地域では乱開発を防ぐ一方、農村文化を生かした新都市との交流が求められ、文化的な象徴として茅葺き屋根に期待する声も聞かれます。石岡市では茅葺きに焦点をあてた景観基本計画を策定、今秋には景観条例を制定する予定です。過去の普及啓発事業から、やさとの茅葺きに対する都市部での関心と、所有者や地域住民の理解は徐々に進んでいます。

以上のような背景のもと、本事業は次の 3 つを目的とします。

- (1) 都市住民には、茅葺き文化に抱く「良きもの」のイメージを大切にしながら、普及啓発活動を通じ、茅葺きの持つ課題を認識してもらい、一層の支援・協力を得るとともに、都市と農村におけるコラボレーションの可能性を探る。
- (2) 所有者には、昔ながらのものとして守ってきた茅葺きに、現代的、未来的な価値を見い出せるよう、交流を通じて意識を高め、新たな活用方法を模索する。
- (3) 地域住民には、地域の景観や農村の生活環境の保全、さらに地域づくり点から、地域資源としての茅葺き民家の価値を理解してもらい、協力と支援を得る。

## 5. 事業に期待される効果

- (1) 都市住民にとっては、茅葺き民家の暮らしの一端を体験し、生活とともにつくられてきた農村景観と茅葺き文化への理解を深め、地域住民との交流から新しい支援活動や協力体制の構築へとつなげることが期待される。
- (2) 所有者と地域住民にとっては、茅葺き文化を通じて都市住民と交流することで、茅葺きの維持が広く価値の高いものだと再認識し、新たな活用法を模索できる。
- (3) 両者の共同が生む価値の共有は、新しい担い手の裾野を広げ、茅葺きと茅場の維持保全をより円滑にする。茅場が整備され、良質な茅が持続的に確保され、茅葺き民家を中心とする文化的景観としての農村景観が維持保全される。

## 6. 事業実施内容

### ① 八豊祭「やさと LOVE フェス」 茅葺き写真展&茅葺きツアー

地域の魅力を広めようと、やさと周辺および都内在住の若者が中心となって企画するローカルフェス。都内より天ぷら油バスでやさとを訪れてフェスに参加、茅葺き民家を訪ねて家人の話き、茅葺きを支える農村文化を体験するツアーのほか、銚田第一高校生によるフォトスペース「歩いた聞いた！ やさとの茅葺き」（仮題）も開催します。

### ② 筑波山麓里山プロジェクト 茅葺き体験研修

茅場から刈り取られたススキが、どのように屋根になるかを知るため、茅葺きの下準備と平葺きの基本を職人の指導のもとで体験します。昨年好評を得た同企画。本年は開催場所をつくば市内に移し、新たな参加者の掘り起こしをはかります。

### ③ 筑波山麓茅刈り隊

つくば市内の高エネルギー加速器研究機構の構内約 10ha に自生したススキを市民ボランティアとともに刈り集めます。参加者は作業を通じて、茅場の営みと茅葺き文化の一端を体感し、同時に茅葺き所有者との交流を持つことができます。なお、茅葺きをめぐる自然環境と生活文化、さらに今後の課題などへの理解を深めてもらうため、本年はテキスト配布や後日見学会によるフォローアップを進めます。

### ④ 観光ボランティア茅葺きガイド研修

石岡市内で活動する観光ボランティア、および関心のある一般市民を対象に筑波山麓の茅場と茅葺き民家の営みについて、共通の理解を得てもらうための研修会を行います。また、自然・地理・歴史・文化・観光といった多角的な視点から、地域の茅葺きを俯瞰するテキストを作成します。

### ⑤ やさとの茅葺き民家 U20 絵画&写真展

4年目となり定着した地元中学生対象の絵画展。今年はスーパー店頭のほか、役場ロビーでの展示も行い、絵画にあわせて高校生の写真も掲示、訴求力の向上をめざします。

### ⑥ やさと茅葺き見学会・交流会

やさとの代表的な茅葺き民家を訪ね、茅刈り隊で集めたススキで仕上げられた屋根を見学、家人の話聞きます。その後居住者との交流会でフリートークを行います。

### ⑦ やさと茅葺き自転車散歩

地域内に散在する茅葺き民家をサイクリングで訪ねるツアー。アクティブな年齢層から反響の大きかったブログコンテンツを具体化します。ガイドの解説により茅葺きだけでなく周辺の農村景観も含めて体感、理解を深めることができます。

### ⑧ ブログ・やさと茅葺き屋根保存会だより

筑波山麓の茅葺き民家と茅場の営みや、それらを支える地域の農村文化を紹介するブログは最近1年間で約1万アクセスを数えています。今年度もイベント情報などのほか、茅葺きをめぐる文化を取材紹介。さらなる読者獲得をめざします。

## ① 八豊祭「やさと LOVE フェス」 茅葺き写真展&茅葺きツアー

日程 平成 24 年 9 月 23 日 (日)

場所 朝日里山学校 (石岡市柴内)

対象 一般市民

参加者 約 200 人 (茅葺きツアー参加者 約 50 人)

石岡市旧八郷町エリアは、やさと地区と呼ばれます。ここには農業を中心にした生活文化が脈々と受け継がれ、いまに残っています。目に見える形が茅葺き民家であり、懐かしさを感じる里の風景です。やさと地区の生活文化の豊かさを伝えていきたいと、やさたと東京の若手が協力して企画されたイベントが、「八豊祭 (やほーまつり)」です。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず、近隣はもとより都内からも多くの参加者が集まりました。当保存会では、イベントのコンテンツとして、「茅葺き写真展」と「茅葺きツアー」を企画運営し、生活文化としての茅葺きの営みについて普及啓発をはかりました。

茅葺き写真展については、「やさとの茅葺き展」として県立鉾田第二高校写真部に担当をお願いしました。同写真部では、平成 23 ~ 24 年に、やさと地区の茅葺き民家に通い、茅葺き屋根とその暮らしの写真を撮りためてきました。会場ではその成果を展示するとともに、撮影した高校生たちによる案内も行い、来場者には「わかりやすい」と大変好評でした。また、イベントのメイン会場となる屋外には地元フォトグラファーによる茅葺き関連写真のオブジェを設置し、この前で案内を行って屋内の写真展会場へと誘導をはかりました。

茅葺きツアーの予定は、午前中にハイキングを兼ねて会場周辺の民家を案内し、午後はバスを利用した町内民家見学ツアーでしたが、雨天のため変更し、午後に 2 便のバスツアーを行いました。バス内にて当保存会スタッフが解説をするとともに、訪問した 3 カ所の民家では家主が案内を担当し、参加者からの質問に対応しました。

これまで当保存会で行ってきた各企画は、参加者の中心層が県内の中高年となる傾向にありました。しかし、「八豊祭」の参加者は首都圏の 20 ~ 30 歳代がメインで、日本に滞在する外国人も目立ちました。彼らは今回の企画を通じて、農村文化や茅葺き民家の暮らしに大変興味を持ち、その豊かさを高く評価していました。

新しい層への普及啓発という点で、とくに大きな意義のあるイベントでした。



上) やさとを代表する 3 つの茅葺き民家を訪ねました  
右上) 民家への移動には天ぷら油で走るバスを利用しました  
右下) 高校生が撮りためた、やさとの茅葺き屋根の写真が注目を集めました





## ② 筑波山麓里山プロジェクト 茅葺き体験研修

日程 平成24年10月14日(日)

場所 つくば市六所 古民家移築再生現場

対象 一般市民

参加者 約50人

茅刈りで集めたススキが屋根としてどのように使われるのか、実際に手足を動かして知ってもらう体験研修。好評だった昨年に引き続き行いました。

今年の会場は筑波山の参道にほど近い、つくば市六所地区。筑波山麓グリーン・ツーリズム推進協議会によって進められている古民家の移築再生現場です。小束に束ねる下準備の「茅ごしらえ」から、屋根に並べて葺き上げる「平葺き」までを、職人の指導のもとで体験研修しました。

実際に屋根を葺く現場を借りてのイベントには建築工程全体の調整が必要です。今年も施主と職人の協力を得て実現しました。参加者には、よりリアルな体験ができると同時に、工程への理解を深めてもらえました。



左) 足場上がり実際の屋根を葺きます。親子での参加も見られました 下) 茅を束ね直す小まるきは、たいせつな下準備



縄むすびは茅葺きだけでなく、農家のさまざまな場面で使う基本わざ。何度も繰り返しているうちに覚えます

### ③ 筑波山麓茅刈り隊

日程 平成 24 年 12 月 8 日 (土)、9 日 (日)、10 日 (月)、14 日 (金)、16 日 (日)

場所 独立行政法人 高エネルギー加速器研究機構 (つくば市大穂)

対象 大学生、一般市民

参加者 延べ約 200 人

つくば市にある「独立行政法人 高エネルギー加速器研究機構」構内に自生するススキを、茅葺き民家所有者たちとともに市民ボランティアが刈り集める「筑波山麓茅刈り隊」。8 回目になる平成 24 年度は、前半 3 日、後半は雨で 1 日中止となって 2 日の計 5 日間行いました。

作業には普及啓発を目的とする体験研修としての位置づけがあり、会員の熟練者は未経験者に熟練者が手順やコツを伝えるとともに、休憩時間などには積極的に交流をはかりました。また、茅刈りと茅葺き民家について解説した折チラシを作成、配布し、作業の背景となる知識を学んでもらいました。

#### ●参加者内訳の概要

茅葺きの家主・職人 = 1 割、行政関係者 = 1 割、

初参加ボランティア = 4 割、リピーターのボランティア = 4 割

※茅葺き民家の営みの一端としての茅刈りを体験する「筑波山麓茅刈り隊」は、一日フルに体を使っての作業とはいえ、初参加者への訴求力が強く、また、一度参加した方の再参加率も比較的高いイベントです。茅場と茅葺き文化を深く理解いただく点で、魅力あるコンテンツとなっています。

#### ●平成 24 年度 茅刈り実績

刈り取り駄数 340 駄 (2040 束)

指定場所面積 約 2.92 ha

延べ参加者数 約 200 人

屋根補修軒数 10 軒

※1 束 (1.8 m の縄を使って圧縮して束ねたススキ) × 6 = 1 駄



茅を刈り、集めて、縛って、運びます。単純な作業ですが、コツを覚えると能率よく進みます